

# ほっと NEWS

ここを支える、ここで支える



## 聖泉最大のイベント“万聖祭”



### CONTENTS

- ・日本代表監督就任
- ・万聖祭を開催しました
- ・米原市との連携協定
- ・研究発表で優秀賞を受賞
- ・聖泉シンボルスポーツの活躍
- ・春のオープンキャンパス ご案内

万聖祭の様子

SEISEN UNIVERSITY 聖泉大学

一足お先に聖泉体験  
聖泉大学 春の  
オープンキャンパス

# SEISEN OPEN CAMPUS 2016

**3.29** 火

|      |                     |                       |        |
|------|---------------------|-----------------------|--------|
| 人間学部 | AM 9:00 ~ PM 12:00  | 受付 9:00 ~ 開始 9:30 ~   | 要事前申込  |
| 看護学部 | PM 12:30 ~ PM 15:20 | 受付 12:30 ~ 開始 13:00 ~ | 事前申込不要 |

「ひと」と「ところ」のつながりを学ぶ

## 人間学部

事前申込が必要です。定員：20名（先着順）

### 心理学を活かしたキャリアデザイン入門

性格診断や職業適性検査など聖泉で学ぶ「心理学」を体験しよう！

体験授業①  
9:45~10:25 ■性格診断

性格診断テストを使い  
自分の性格について把握しよう

動物エゴグラムを利用した性格診断により、自分の性格タイプを判定することで、自分自身の性格の長所や短所について知る手がかりを得ることが出来ます。

体験授業②  
10:35~11:15 ■職業適性検査

職業適性検査を使い、自分の職業の適性について把握しよう！

職業カードを使いながら遊び感覚で、自分に向いている職業にはどのようなものがあるのかを知ることが出来ます。また自分の性格の特徴と合わせて、職業の適性を考えていくことも出来ます。

### 人間学部 体験授業申込方法

人間学部の体験授業にご参加頂くには、事前申込が必要です。お申込は本学WEB、もしくはお電話にて受け付けております。

WEB

【オープンキャンパス】→【申込はこちらから】からお申込ください  
<http://www.seisen.ac.jp/nyugaku/open>

TEL

0749-43-7511 (入試直通)

MOBILE

申込フォームに  
アクセスできます





## 山堀助教がホッケーの日本代表監督に就任

（公社）日本ホッケー協会は、1月9日（金）記者発表会を行い、ホッケー男子日本代表監督に、元日本代表で聖泉大学男子ホッケー部の監督である山堀貴彦（人間学部助教）を起用することを発表しました。

現在、東京五輪のターゲットエリートとなる「B」日本代表チームのヘッドコーチとして指導に携わり、ジュニアアジアカップやユニバーシアード競技大会にも出場。選手時代の卓越した実績をはじめ、指導者としても着実に経験を重ね将来性を見込んだ上で、東京五輪を目指す強化にあたります。「B」のスタッフも兼ねながら日本代表監督に就任した形となります。

山堀助教は滋賀県米原市出身、小学生から地元伊吹町でホッケーをはじめ、長浜高校卒業後、ホッケーの名門天理大学へ進学。大学時代より個人表彰を総なめにする活躍を続け、大学卒業後は実業団の名古屋フラーテルホッケーチームで活躍しました。その後、日本代表に12年あまり在籍し、エースとして活躍する一方でキャプテンとしてもチームを牽引しました。

代表引退後は、地元滋賀県にある聖泉大学人間学部教員として、男子ホッケー部を創部。創部6年目という異例のハイスピードでインカレベスト8を達成しています。



## 学園祭（万聖祭）を開催しました

平成27年11月21日（土）・22日（日）の2日間にかけて、第31回聖泉大学万聖祭を行いました。

両日とも天候に恵まれ、会場はどしてもぎやかで多くの方に会場いただきました。様々な模擬店・出店し、完売する店もあるほど大盛況。また、ステージイベントでは様々な企画が用意されています。中でもよさこいでは会場の参加者も一緒に踊り、会場全体が一体となり盛り上がりました。

その他にも、軽音楽部や吹奏楽部、ダンス部によるステージ発表もありました。メインイベントのお笑いライブでは会場が多人数で埋め尽くされ大盛況。

その他にも、ジパニヤンとの握手・撮影会に地域の子連れに多く参加していただき、31周年記念講演会「ツレがうつになりまして」には150名以上の参加がありました。

校舎内でも美術部の作品展示や各学部による展示なども行われました。またホームカミングデイも行われ、多くの卒業生が万聖祭に参加をしてくれ、盛りだくさんの内容となりました。



## 米原市と連携協定を締結しました

聖泉大学と滋賀県米原市は、12月26日（木）、市が抱える課題の解決策を考えた、強豪の聖泉大学ホッケー部員が市民にホッケーを教えるなどの連携協定を結びました。

大学からは全国大会でも活躍するホッケー部の選手を米原市の小中学校へ派遣しホッケー教室を実施したり、就農体験や選挙の投票率向上に向けた取り組みなどを行います。

市からは介護や看護分野のインターンシップの受入や新規就農希望者の受け入れを行っていただく予定です。

地域の課題を解決する人材を活用する市と地域貢献を目指す大学とが相互の関係を深めるために今後の取り組みが期待されています。

## 横山辰弥さん（人間学部4回生）が優秀賞を受賞しました

人間学部4回生の横山辰弥さん（富川ゼミ）が、12月6日にキャンパスプラザ京都で開催された「第11回 京都から発信する政策研究交流大会（主催：公益財団法人大学コンソーシアム京都）」で研究発表を行い、優秀賞（パネル発表部門）を受賞しました。研究テーマは「地域の防災活動の現状と課題について」です。地域における防災活動の現状と課題を明らかにし、防災活動を開始、継続していくための方策を検討しました。



# 聖泉シンボルスポーツの活躍

## 女子ホッケー部 >>> 監督 宮崎奈美

今年の最大は、創部当初から念願だった『日本リーグ』に新規参入させて頂くことになり、これまでこのチームに関わって下さった関係者の方々に感謝致します。初参戦となる日本リーグでは、『社会人と学生の融合』をコンセプトにチャレンジャーとして挑みました。社会人の豊富な経験と学生の若さを活かした勢いのあるプレーで一戦一戦を大切に、一生懸命闘いました。

今までにないスケジュールで不慣れな長期遠征、コンディショニングづくり、またチームをピークへ持っていく方法等にも試行錯誤で、年間を通して色々な大会があり、試合数が増えた事は良い事ですが、練習自体が減り個人スキルと戦術理解などのチーム構築をしていく為のプランの改善をしていく必要があると感じています。

現状を知り真摯に受け止め、来年度に向け足元を固めて前向きに取り組み、リカバリーして、観ての人達に聖泉ホッケーの面白さと楽しさ・情熱が伝わるように全力でアピールしていきたいです。今シーズンは初めての事が多い中、選手・スタッフ全員が色々な経験を積む事ができた事は、私たちにとって大きな財産となりました。



## 監督 後藤 剣 <<< 女子サッカー部

昨年の秋リーグにおいて、2部降格となってしまう落胆の思いと同時に次こそは必ず！！と意気込む部員が一人となって活動しておりました。そんな中、1部リーグ残留チームがチーム存続不可能により聖泉大学が1部残留という朗報から今シーズンがスタートしました。

新メンバー 6名を迎え『奪還、そして、挑戦』をテーマに春季リーグをスタート。最終節まで縫れ込む展開となり、結果は紙一重で5位。明確な課題が分析でき、インカレ出場順位まであと一歩という期待と焦りが錯綜する状況でリーグを終えました。

夏季においては、全日本女子サッカー選手権大会県予選（皇后杯）を優勝し、同関西大会において、秋季リーグ戦の合同という厳しいスケジュールの中開催され、結果はベスト8。秋季リーグへの準備期間として、更にチームが一つの目標へ向かう状況となりました。

春季リーグから秋季リーグまでの短期間で、選手の勝敗に対する意識の成長が顕著に見られましたが、勝ちきれない試合が続く、インカレ出場の権利をかけた秋季リーグは勝ち星1つを争う大混戦。最終節まで縫れ込み、得失点差で、2部へ降格することとなりました。

歴史的敗戦を経験し『奪還、そして、挑戦』は、インカレ出場を達成するまで続いていく課題となりました。しかし、チームを引っ張り、高まりを創った4回生の活躍は感謝と同時に一つの勝利に値すると感じた活動となりました。



## 男子ホッケー部 >>> 監督 山堀 貴彦

男子ホッケー部の今年度の成績は、関西学生春季リーグ4位、関西学生秋季リーグ6位、インカレではベスト16、全日本大学王座決定戦ではライバル校の一つである朝日大学を破り、創部初のベスト8。西日本インカレでは東海学院大学に勝利し、創部以来最高の順位となる4位で来年のシード権を獲得することができ、着実に力をつけてきた成果が見えた成績で今シーズンを終えることができました。

今年度は春先から日本 NO.1 クラブチームの「名古屋フラーテルホッケーチーム」と合同トレーニングを多くすることで、日本トッププレーのスピードを体感し、判断力の速さや広い視野を確保しながら次のプレーのために準備をする意識を習得することができました。また、上級生がチームの主力としてイニシアティブをとりつつ、下級生がその姿勢を学ぶ。そうすることで、チーム力を向上することができたことや新しい戦術を構築し更なる高みを目指す可能性を感じたシーズンでした。

今シーズンの経験を活かし、次年度に向けては、選手の主体性を更に高め、論理的な思考を持ちながらプレーを行うことと基本技術力を底上げし、全てのプレーの精度が高められるよう取り組んでいきたいと思っています。